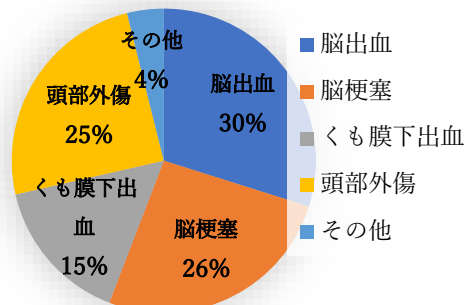
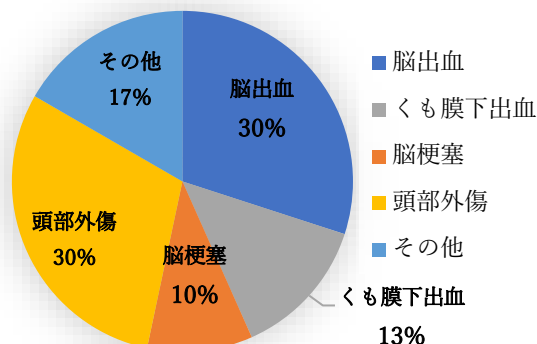


2024年度 心理部門 臨床指標

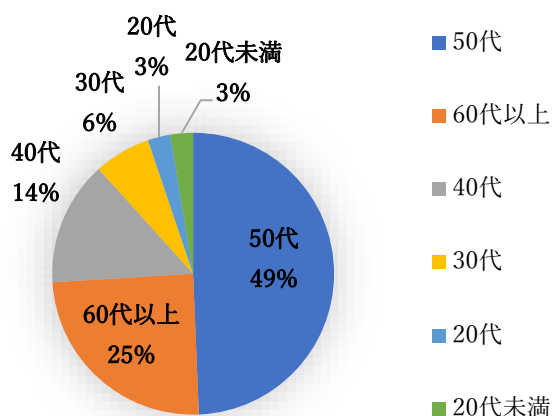
心理オーダー疾患別内訳（入院）



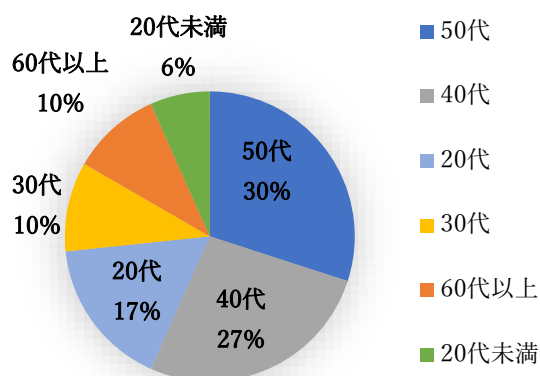
心理オーダー疾患別内訳（外来）



心理オーダー年代別内訳（入院）



心理オーダー年代別内訳（外来）



一般的な回復期リハビリテーション病院の入院患者の年齢層が80代、90代であるのに対し、当院の心理士が関わる患者の年齢は若くなっている。それは復職・復学または新規就労を目指す高次脳機能障害のある患者への対応がメインとなっているためである。若年患者の社会復帰への支援ニーズに対応していることは当院の大きな特色の一つとなっている。

2024年度は臨床心理士（公認心理師）が介入した入院患者の年齢層は50代が最も多く、次いで60代、40代の就労現役世代となった。2023年度は50代に次いで40代が多かったことを考えると就労年代が徐々に上昇している昨今の情勢を反映しているものと思われる。

疾患別では入院患者では脳出血、脳梗塞、くも膜下出血など脳卒中の割合が7割以上を占めた。一方外来患者では脳卒中の占める割合は5割強と入院患者に比し少なく、頭部外傷・その他の割合が多くなった。これは頭部外傷では介護保険が使えないことと、身体機能としては在宅生活が可能だが高次脳機能障害が残存して社会生活で支障を来たす状態になりやすいことが考えられた。また、頭部外傷は若年のほうが多い傾向にあり、より社会復帰を求められるためではないかと思われる。

◆ 心理士が介入した患者の入退院時の FIM 値（認知機能）の変化

* 1～4を重度、5を中度、6,7を軽度とした場合 (N=77)

	F I M（入院後）			F I M（退院前）		
	社会的交流	問題解決	記憶	社会的交流	問題解決	記憶
軽度	45	13	23	62	56	52
中度	9	30	11	8	9	11
重度	23	34	43	7	12	14

◆ 高次脳機能障害 特別訓練プログラム（グループ）の運営

2024 年度は 6 名の参加であった。成果は個人ベースになるが顕著な病識の改善が見られた患者もいた。

（グループは 1 クール/年、3～4 か月/1 クールで開催しており、グループの人数は 6～9 名で運営）